神奈川県臨床細胞学会
Kanagawa Society of Clinical Cytology

ニュースレター

神奈川県臨床細胞学会
第 35 号 平成 29 年 9 月 9 日発行
事務局：〒241-8515
神奈川県横浜市旭区中尾 2-3-2
神奈川県立がんセンター
医療技術部検査科病理内
TEL：045-520-2222(内線 3624)
FAX：045-520-2202

第 35 回神奈川県臨床細胞学会学術集会が昭和大学横浜市北部病院臨床病理検査室　北村隆司会長のもとに開催されました

第 35 回神奈川県臨床細胞学会学術集会を終えて

昭和大学横浜市北部病院 臨床病理検査室　北村隆司

去る平成 28 年 10 月 1 日（土）13：00 より、昭和大学横浜市北部病院西棟講堂において第 35 回神奈川県臨床細胞学会の学術集会会長を務めさせていただきました。開催に当たっては昭和大学横浜市北部病院臨床検査室小島朋子主任（実行委員長）を中心に病理検査室スタッフの花井絵梨果さん、金子あゆみさんと少ない人数で業務の終了した後に抄録集の作成や会場設営、及び懇親会の準備等を行いました。また、当日は昭和大学横浜市北部病院臨床病理検査室津田祥子課長と病理検査室スタッフ 3 名、私の前の勤務先である昭和大学藤が丘病院病理検査室の岸本浩次氏とスタッフ３名、現在の勤務先である昭和大学 BML ラボ病理検査室スタッフ 4 名、友人の大金直樹氏、小穴良保氏、神奈川県細胞検査士会から仲村武会長と 2 名の細胞検査士の方々にお手伝いをいただき、203 名の出席を得て盛会裏に学術集会を終えることができました。お手伝いをいただいた方々には改めて深くお礼申し上げます。

今回、私が学術集会を務めるにあたり目標としたのは、「会員にとって記憶（思い出）に残る学術集会にしたい」と「自らがテーマとしていた穿刺細胞診に重きをおいた学術集会にしたい」の二点です。

前者の目標を達成するために今回の抄録集は、私の郷里である信州伊那谷の表紙に始まり、すべてカラー印刷で作成いたしました。学術集会終了後、多くの会員の方に「今回の抄録集は細胞像がカラー写真で掲載されていて良かった」と声をかけていただき、この目標については達成できたのではないかと思っております。

後者の目標については甲状腺病理のエキスパートである慶応義塾大学病院 病理診断部の亀山香織先生に甲状腺の病理診断のなかでも難しい病変である「濾胞性腫瘍の病理診断」について、甲状腺細胞診は友人でもある伊藤病院 臨床検査室佐々木栄司先生に「甲状腺低分化癌の超音波像と細胞像および細胞採取部位」についてのご講演をいただきました。お二人のご講演を拝聴して改めて超音波検査画像の知識を持った細胞検査士がベットサイドに出向き標本を作製することの重要性を感じた次第です。また、私自身がかねがね検査士セミナーでやっているセルフアセスメントを学術集会でもできないかと考えておりましたので、穿刺細胞診に特化したセルフアセスメントをプログラムに加えました。さらにより会員にとって有益なものとなるよう、各分野をご担当いただいた先生方にご無理を言い解説集も作成しました。先生方にはご多忙中のところご協力いただきましたことを深くお礼申し上げます。

最後に、私が目標としておりました“記憶に残る学術集会”の開催に向けて、陰ながら支えていただきました神奈川県臨床細胞学会会長 加藤久盛先生、県立足柄病院検査科大金直樹氏に心よりお礼申しあげます。

日本臨床細胞学会技師賞を
本会会員の加戸伸明氏が受賞されました

本会会員である加戸伸明（東海大学医学部付属病院病理 検査技術科）様が、日本臨床細胞学会技師賞（学術部門）を受賞されました。受賞式典は、 第 58 回 日本臨床細胞学会総会 春期大会で行われました。

◇◇ お知らせ ◇◇

平成２６年より本会の名称が変更になりました。

日本語名称：**神奈川県臨床細胞学会**

英語名称：Kanagawa society of clinical cytology

神奈川県臨床細胞学会事務局変更のお知らせ

神奈川県臨床細胞学会事務局は、平成 28 年 4 月 1 日より神奈川県立がんセンター医療技術部検査科病理内に変更となりました。つきましては、連絡先等が以下の通りとなりますのでご周知の程よろしくお願いいたします。

平成 28 年 4 月吉日

神奈川県臨床細胞学会長加藤久盛記

１．新事務局について

〒241-8515 神奈川県横浜市旭区中尾 2-3-2

神奈川県立がんセンター医療技術部検査科病理内

電話番号 045-520-2222(内線 3624)PHS 5142

FAX 045-520-2202

ニュースレターは神奈川県臨床細胞学会広報委員会が制作しています

広報委員：磯崎勝（委員長）、高久良子（副委員長）、岩撫成子、高瀬章子、長谷川哲哉、坂野みどり、本野紀夫

《 訪問帳 Visiting book ～その四 》　　神奈川県臨床細胞学会

『国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院　～病理診断科～』

2016 年 10 月に就任いたしました、神奈川県臨床細胞学会　仲村副会長（神奈川県細胞検査士会　会長）の勤務する横浜南共済病院について紹介いたします。

横浜南共済病院は、昭和 14 年に横須賀海軍共済病院追浜分院として創設され、昭和 20 年に追浜共済病院と改称、昭和 40 年に横浜南共済病院と改称し創設より 77 年を迎えました。病院名の如く横浜市の南に位置し、500 メートルほど進むと横須賀市に入ります。最寄り駅は京浜急行電鉄の追浜駅であり、徒歩 7 分ほどです。病床数は 565 床、外来数は 1 日約 1,400 人の横浜市南部および及び横須賀市、三浦市、逗子市、葉山町等に対して急性期医療を提供している病院です。

病理診断科スタッフは、河野部長を中心に常勤病理医 2 名と非常勤病理医 6 名（内、認定病理医 7 名、細胞診専門医 5 名）と検査技師 7 名（内、細胞検査士 7 名）で日々の業務を行っております。病理医は幅広い年齢層でありますが、検査技師は 7 名中 5 名が 45 歳以上と年齢に偏りがあるものの、活気のある職場で組織・細胞診業務と臨床対応に頑張っています。

業務としては、組織件数は約 7,400 件、免疫染色枚数は 4,500 枚、迅速件数は約 300 件、細胞診件数は約 8,900 件、解剖件数は 10～15 件です。市中病院であることから症例に偏りはあるようですが、時には希少な症例を経験することもあります。現在は新病棟建築中ですが、工程も終盤となり病院の景観もたいへん変わってきています。詳細は、ホームページをご覧下さい。

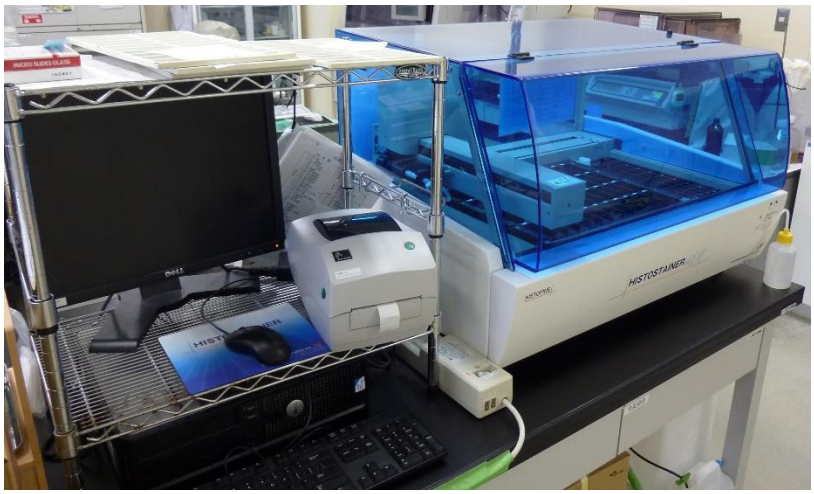
病理診断科内を紹介いたします。

切り出し室は局所排気装置を 2 台設置し、部屋をドアで仕切りホルマリン対策を行って

おります。

ミクロトームは２台設置していますが、多くは１人で薄切を行っています。

染色装置は２台（サクラファインテック　プリズマ、DRS-601）を使用して組織用・細胞診用と使い分けています。DRS-601 は、30 年近く使用していますが現役で頑張っています。



自動免疫染色装置は、ニチレイ　ヒストステイナーを使用していますが、状況により３回稼働する場合があります。新しく追加の１台が必要なのではないでしょうか・・・

鏡検スペースは、6 台の顕微鏡と病理システム端末を設置しています。ディスカッションしながらスクリーニングに励んでいます。

病理医診断室には、ディスカッション顕微鏡と大型スクリーンを設置し、臨床医からのコンサルトや呼吸器・血液腫瘍・乳腺・皮膚カンファレンスを行っています。また、細胞診症例検討会を 2 カ月に 1 回程度で当院あるいは系列の神奈川、東京の共済病院や神奈川県下の数施設において、仲村が中心となって開催しています。興味のある方はご連絡をお願いいたします。

最後に、日常業務に追われる日々ではありますが、地域の中核病院の一員として知識・技術の研鑽に努めています。今後も皆様のご協力等よろしくお願いいたします。

（文責：今井宏樹）